



福祉活動中の矢高生にインタビュー！

② 高齢者給食メニューの企画・調理参加

●八月六日、高齢者給食サービスの調理実習に矢高生三名が参加しました。

「お弁当を作り、届ける活動を通してお年寄り、一人住まいの方とコミュニケーションを大切にされていることが分かりました」

「料理が全然できない私でも一つ一つ丁寧に教えてくださり、楽しく調理できました。カボチャを初めて食べられて、うれしかったです。本当に参加して良かったです」

「高齢者の方々が食べやすいように切り方や味、煮方を工夫していました。私の学科でも実習があるので貴重な体験となりました」
(M・W)



具材を小さく、柔らかくしたり、薄味に配慮しました！

③ きらきらサロンに参加



きらきらサロン(沢)で輪投げを一緒に！

●八月七日、沢長寿会の皆さんと交流するキラキラサロンに矢高生十一名に参加しました。

高齢者と輪投げの練習をしてから試合開始。高校生も本気になって投げ、盛り上がりつつありました。試合後のお茶会では、パソやお菓子をいただきながら、それぞれの感想などを話し合いました。

「コツは集中すること。うまく入った時の感覚を忘れずに」と話すのは優勝した女性。

「輪投げの輪が意外と重かった」と体格の良い男子生徒の発言には笑いがおきました。(R・K)

④ 児童館で学童と多世代交流

●八月六日、矢板児童館で子どもたちとの交流に矢高生五名が

参加しました。

トランプなどをした後、語りべの皆さんによる「若返りの水」を聞きました。それから校庭に出て、鉄棒や築山で元気に遊びました。

「最近あまり外に出ていなかったので、子どもたちに元気をもらえました」

「子どもたちがたくさん寄ってきてくれて、一緒に遊べて楽しかったです」

「兄が一人だけなので、弟のようでかわいいですね」

「小さい子たちと遊ぶ機会がないので楽しかったです」

きらきらサロンと児童館の両方に参加した女子生徒二名に話を聞いてみました。

「ボランテニアをしているというより、小学生からは元気ももらい、高齢者からは、やり方のコツを教えてもらった。一緒に楽しい時間を過ごしました。特に輪投げは、来年も挑戦してみたいです」
(R・K)

(記者の一言)

「矢板市に住んで良かったと思えるまちづくり」、いつまでも元気で、安心して生活ができる環境をつくってほしいと思います。そのためには高校生をはじめ、多くの「若い力」の理解と協力が必要だと感じました。

若い人が矢板の将来を提言

矢板まち・ひと・しごと創生 総合戦略ワーキンググループ

国が人口減少克服と地方創生に取り組んでいることを受け、矢板市でも今年六月、「まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を組織しました。

その中のワーキンググループは、若い世代からの意見および提案を行うグループで、二十代から三十代を中心とした矢板市内に仕事などで関係している人十三名(男性十名、女性三名、うち矢板市民五名含)の委員で構成されています。

総合戦略ワーキンググループの委員は若者の視点で矢板の現状、課題をふまえ、矢板市の将来について八月中旬に四回の会合を持ち、熱心に討議し数項目に絞り込み提言をまとめました。

ワーキンググループ委員の足利銀行矢板支店の小竹真未さんと栃木銀行矢板支店の中島江利佳さんに、この会



合の様子と自身の感想をお伺いしました。

- ・自分のまち矢板を真剣に良くしようと思う人がいるんだと改めて感じました。
- ・皆さんそれぞれの立場から前向きな発言がありました。

私は今まで矢板市については単なる勤務地でしたが、メンバーに入り、友人との会話の中でも、矢板市を意識するようになりました。

- ・個人商店が元気がないように思えます。飲み物など少しですが、市内の個人商店で買い物するように心がけています。

提言された項目は、市長を本部長とする戦略本部で検討し、方向付けを行い、今年中に最終案を決定する予定です。

記者としても若い人の提言がどのよう

(T・M)